

インド渡航歴40回超!

佐藤良純の No. 10

インド・釈尊あれこれ紀行



ヴァイシャリ

アショーカ王が建立した王柱で、奇跡的に完全な形で残っているのはヴァイシャリのこの柱だけだ



パータリプトラに残る列柱30本の跡。現在は土中でみることができない。写真は50年前に著者が撮ったもの



池川から全景を望む。この遺跡の周りには建物はなく、林と野原が広がっている（写真左上下）

ヴァイシヤリはマガダ国の首都、ガンジス河南岸のパータリプトラを北に渡って車で2時間のところにあります。そのパータリプトラには宮殿の列柱30本が残っていますが、ガンジス河より低い土地にあるためほとんど水没していますので、現在は保護のため土に埋戻され、見ることはできません。

その宮殿そばには病院の僧坊がありました。インドの医学は古くから発達しており、チャラカ サンヒター（内科）、スシュルタ サンヒター（外科）の医学書がありました。外科手術の用具の残骸も残されています。心療内科もあり、医師の心得として倫理学、論理学を学ぶことが必修でした。内科には、ホモエパシーと呼ばれる療法がありました。これは例えば熱の高い患者にはさらに熱の上がる薬を服用させ、熱を下げる療法です。

釈尊と縁の深いヴァイシヤリですが、この



地元インドの仏教徒にとって聖地となるヴァイシャリ。
遠く王柱を仰いでの祈り

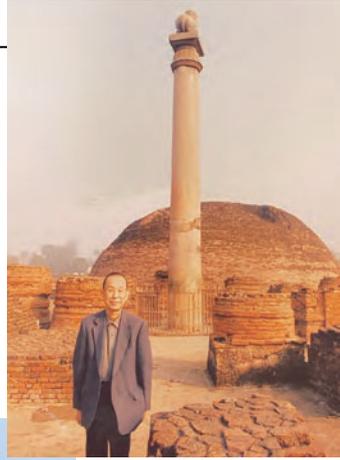


釈尊の生涯を描いた絵伝木彫り。
この地で猿が釈尊に蜜を捧げた、
といわれている

ヴァイシャリに住んでいたリツチャビの人々は共和制の政治体制を整えており、三種の投票方法がありました。一つは公開投票、つまり全ての人々が判る投票、二つめは部分的公開投票、つまり知らせて良い人には公開する方法、三つめは誰にも分らない秘密投票で、この形をとる間はリツチャビの人々は絶体に滅びないと仏典にも記されています。

この地で行われた第二回の仏典結集では、経と律（教団の規則）の再確認を行いました。釈尊が亡くなり百年が経ち、規則を勝手に解釈する者、例えば太陽が正午を過ぎても食事をしてよいなど、が多くなったためです。

ヴァイシャリといえば、完全な形のライオンを頭柱に持つアショーカ王建立の塔が有名です。また、猿が釈尊に蜜を捧げた場所もあります。そして、この村に住んだ遊女アンバパーリーのマンゴー園の跡もあります。当時



王柱の上にはライオンが彫られている

佐藤良純

大正大学名誉教授

さとう・りょうじゅん 昭和7年東京生まれ。大正大学同大学院、インドデリー大学院に学ぶ。昭和34年より大正大学で教鞭をとり、教授、学部長を経て、平成14年退職、大正大学名誉教授となる。インドへの初渡航は昭和38年、以来インドへ訪れること、40有余回。著書に『ブッダガヤ大菩提寺』、『釈尊の生涯』など多数。

の遊女は最上の教育を受けていて、最も高い知識、識見がありました。

そして、ここには維摩居士という在家の仏教知識人も住んでいて、その家は訪れる人々の人数によって広さが変化したと伝えられます。教えは大乗仏教、空思想でした。その場所は維摩の方丈と呼ばれ維摩居士の懐の大きさを示しています。

ヴァイシャリには千人の子供を持つ鹿母の寄付した鹿母講堂もありました。そして、ヴァイシャリの北にインドで一番大きいケサリヤのストウーバがあります。北へ向かう釈尊を慕ってきた、リツチャビの人々をあきらめさせるために、大きな川を造られたとされる所です。何層もの階段状で一番下の基壇は百メートルもあり、各層に多くの仏像が祀られています。塔の前の沼地には僧坊の跡が未発掘の状態で眠っています。